



言語センター論文集『言語と文化』創刊に寄せて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 萩原, 俊治 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/1001

言語センター論文集『言語と文化』創刊に寄せて

大阪府立大学に言語センターが誕生し、研究誌『言語と文化』が創刊されることになった。言語センターにはさまざまな言語と文化を研究する教員がいる。その多様なメンバーによって構成されている言語センターが研究誌を出すのだから、当然、多様な内容に満ちた面白い雑誌になるはずだ。

およそ大学の紀要論文というものは面白くもないものと相場が決まっている。書き手の能力もあるだろうが、そうなる原因の大半は、書き手が自分の属している集団（学会や研究会）にだけ目を向けて書いているからだろう。その狭い集団を突き抜けて書けば面白くなるのに、それはしない。そんなことをすれば、所属集団から「変人」と見られ、村八分の憂き目にあうかもしれない。このため、安全第一主義をとって、自分のタコツボの中で書く。その結果、紀要論文の読者は御当人とその友人数名だけということも珍しくない。学会誌にしても読者が若干広がるだけで、基本的にはそう変わりはないだろう。こんなことはやめよう。紙資源の無駄遣いだし、だいいち書いている当人の精神衛生にもわるい。自分で自分をタコツボの中に閉じこめているようなものだ。

というわけで、タコツボから抜け出した論文、読み出すとやめられなくなるような論文が『言語と文化』に次々と掲載されるようになればと思う。論文だけではなく、興味深い翻訳やエッセイなども掲載されれば、読者層も広がるだろう。言語センターのみなさん、面白い雑誌を作りましょう。そのためにも自信作をどしどし投稿して下さい。また、言語センター以外のみなさんも、この『言語と文化』をお読みになって、忌憚のない批評をメールなどでお寄せください。

2002年3月

言語センター主任 萩原 俊治